

令和5年10月31日（火）

本は「どこでもドア」

歌手のJUJUさんはコンサートで各地へ行くとき、必ず本屋に立ち寄るそうです。「本っていうのは、ドラえもんの”どこでもドア”みたいなもの。その本が、それぞれの世界に連れて行ってくれるの。」ということをしてTVで話されていて、その通りだなあ、と思いました。

JUJUさんに限らず、私たちが本の扉を開けると、様々な世界が広がっています。筆者が自分の頭の中にあることを書いてくれたおかげで、私たちもその頭の中を知ることができます。そこに書かれていることを「知る」「理解する」喜びを味わい、さらに「想像する」楽しみを味わうことができます。

今は、バーチャルリアリティ（仮想現実）を楽しむ装置もできていますが、本は、元祖バーチャルリアリティなのです。

自分で文字を追って読まなければならないので、そこを「面倒くさい」と感じてしまう人もいるかも知れません。しかし、迫力ある映像や音が向こうから飛び込んでくるのとは違って、自分で、そこにあるものをつかみに行く。こちらから積極的にその世界に踏み込んで行く感じこそが、本の持つ魅力です。

自分で想像力を働かせること、目には見えていない世界をどこまでも広げていくことができます。想像力は際限なく自由ですから。

想像の世界に遊ぶというのは、人間が生きていく中で一番の贅沢かも知れません。本という「どこでもドア」を楽しまないのは、とてももったいないことだと思います。